

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M232W403	ホスピスケア (Hospice care (Terminal care))	専門教育科目 統合分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	1	4	後	水・3	大野夏稀、末弘理恵、幸松美智子 内線 5055 e-mail : oononatsuki@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

本科目では、患者・家族と医療者が死を意識するようになった頃から始まるとされる「End of Life Care」という考え方をもとにホスピスケアについて考えていく。End of Life Care の概念、場や疾患、年齢の違いによる End of Life care について、講義や関連する文献検討により理解を深める。また、死生観や看護観を深めるとともに、死にゆく人を支える医療のチームの一員としての看護職に期待される役割や看護職としての自己のあり方を考える機会とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 人間の成長・発達の過程から見た End of Life Care について説明できる。	○				-		
2. 現在のホスピスケア、End of Life Care の実際や課題について文献などを用いてさまざまな側面から整理し検討できる。			○	○			
3. 援助者としての自らの死生観や看護観を深め、看護者としての自己の将来的なあり方を表現することができる。				○			○

【授業の内容】

1	End of Life Care の概念と死の意味について	5	End of Life care の実際 (2) ソーシャルサポート
2	成人期 (突然の災害・事故・急病) の End of Life care の実際	6	End of Life care の実際 (3) グリーフケア
3	小児期の End of Life care の実際	7	End of Life care の実際 (4) 退院支援・地域連携
4	End of Life care の実際 (1) 緩和ケア	8	死にゆく人を支える看護師の課題 (文化背景、卒前・卒後教育)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A : 知識の定着・確認	○	授業後の授業評価シート、レポート	・1～3回の講義では、受講生とのディスカッションも行う。 ・4～8回の受講生のプレゼンテーションとその後のディスカッションは受講生が主体的に行う。
B : 意見の表現・交換	○	発問、プレゼンテーション、グループディスカッション	
C : 応用志向	○	テーマに基づく問題基盤学修	
D : 知識の活用・創造		聞き取り調査	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	4回～8回のグループワークとプレゼンテーションの準備 (文献検索、文献から得られた知識の整理とこれまでの学びの体験を振り返り各テーマに関する考えや意見をまとめる) (12h)
事後学修	講義、プレゼンテーション、ディスカッションをもとにレポートの作成 (5h)。

【教科書】

教科書を指定しない。

【参考書】

授業開始時に提示する。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3
レポート	50%	○	○	○
講義、グループワーク、ディスカッションへの参加態度	50%	○	○	○

【注意事項】 後学期が始まる前に、履修者はメールにて事前連絡を行うこと。

【備考】 授業評価シートの提出をもって出席状況を確認する

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	大野夏稀 (看護師)、末弘理恵 (看護師)、幸松美智子 (看護師)	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	ホスピスケアについて、看護師としての実践経験をもとに得た知識や技術も講義に役立てる。看護実践の経験と理論に基づいて講義を行う。	
授業形態	面接授業	